

第2回多摩市文化芸術推進委員会 要点録

| | | |
|---|---|----------------------|
| 開催日時・場所 | 令和8年1月22日(木) 午後7:00～午後9:10 ベルブ永山4階視聴覚室 | |
| 参加委員 | 参加委員7名 佐藤委員長、宮崎副委員長、高野委員、中川委員、新倉委員、春田委員、横溝委員 | |
| 出席職員 | くらしと文化部長、事務局3名 | |
| 主な内容 | 次第1 | 前回会議で出た主な意見 |
| | 次第2 | 文化芸術の推進と評価に関するポイント整理 |
| | 次第3 | 重点取組について |
| | 次第4 | 先進事例について |
| | 次第5 | 今後のスケジュールについて |
| 議題 | 主な意見（●事務局、◎委員長、○副委員長、◇委員） | |
| 次第1～3 前回会議で出た主な意見、文化芸術の推進と評価に関するポイント整理、重点取組について、中間支援機能について | <p>前回の要点録について確認、全委員了承、確定。</p> <p>◎委員長：まずこの会議で何を議論していくか、委員間で前提の部分を認識合わせするため、意見をいただきたい。後半で具体的な議論をする。</p> <p>◇委員：市は最終的なイメージを持っているのか、市はどうしたいのか。それを聞きたい。それによって意見が変わってくる。</p> <p>●事務局：文化芸術推進委員会に求めることとしては、まずは、計画で定めた施策のうち重点取組を推し進めるための中間支援機能の強化の具体化施策の検討である。また、具体的施策により、中間支援機能を強化することで、重点取組や各取組が推進されていることを評価して頂きたいと考えている。この点について、今回の委員会の前半で確認ができればと思う。</p> <p>◎委員長：前回も4つの施策と重点取組を図示した計画の概念図の話が出たが、一つ一つの重点取組を達成すれば紐づく施策、ビジョンが達成されるという事が確認できた。このへんの認識は良いか。先ほどの委員の意見は、中間支援機能の強化、というのがどういうイメージかという話に戻ってくる。</p> <p>◇委員：パルテノン多摩管理運営計画策定委員会、文化芸術条例策定委員会、文化芸術ビジョン検討委員会と歴任した。その後の文化芸術振興計画有識者会議の議論はどのような議論がされたのか、まだすべて終えていないが、ビジョン策定後は戦術的な事、具体的な事を議論しないと同じ事の繰り返しになる。イメージだけでなく、具体的なことを進めていくのが本委員会という認識で良いか。</p> <p>●事務局：中間支援機能の強化という取組を具体化するか決めるのが一つのゴールである。次に、それが既存の取り組みにつながるか評価するというのが本委員会の役割である。</p> <p>◇委員：具体化は市に委ねるといふことか。</p> <p>●事務局：具体化の材料を委員会にいただいて、市としてはそれを受け取って具体化していく。具体的にこういう取組はできないか、という意見はいただいても良いが、推進委員会で全部決定していくことまでは権限委譲はできない。具体的にこういうのがあった方が良いという意見をいただきたい。</p> | |

◇委員：文化芸術振興計画有識者会議はどのような議論をしてきたのか。

●事務局：文化芸術ビジョン検討委員会で策定したビジョンの具体化が文化芸術振興計画有識者会議で議論した計画策定。計画策定フェーズから推進フェーズに現在いる。文化芸術振興計画有識者会議では中間支援機能の具体化の議論は十分にできなかったので、具体的な推進機能の整理を推進委員会にお任せするということであった。

◇委員：半分くらいは理解できた。

◎委員長：これから行う取組のいわば目次になるような計画が策定された。計画策定時は具体的な策をあえて決めなかったという話が委員からもあった。その目次に沿って何をやるか決めるのが我々の役目である。

計画では令和9年が事業スタートとなる。本委員会で何をやるかを明確に決めて翌年から事業スタートとなる。急いで決めないと間に合わない。このスケジュールで事務局が実現可能な材料を提示するという高度な作業が必要になる。どの範囲で材料を出したほうが良いか。具体案を出す前提の認識合わせができれば良い。中間支援機能の定義について一度事務局から説明をお願いしたい。

◇委員：【参考資料】「中間支援機能の調査について」属性③「拠点・会場を活用しながら交流や企画をコーディネートする団体」の施設とは、施設を持っているという意味ではなく、特定の施設を拠点にしているという理解で良いか。

●事務局：お見込みのとおりである。

◇委員：その場合、No.3 多摩子ども劇場は、属性②「こども・高齢者・障がい者と文化芸術をつなぐ団体」だけでなく、③も当てはまる。また、No.14 スタジオメガネ、No.16 タネノスは属性③だけでなく、②も当てはまる。

●事務局：お見込みのとおりである。既存の中間支援機能や機関をサポートする施策検討のために、リスト化した。

◇委員：イメージとして提示したものと理解している。機関ではないところは機能をどうしていくか、ということをお話していく。それぞれの機能、機関を個別に行政がサポートするわけではないので、それぞれの機能、機関が中間支援機関として意識を持ったら自走していける。

その場合、パルテノン多摩はハブになるべきである。文化芸術振興プランでも計画の推進に向けた連携として多摩市文化振興財団が明記されている。元々が文化振興のために設立された組織である。

○副委員長：まず行政がやるべきことを決めないといけない。人なのか、お金なのか、何が足りないかをそれぞれの機能、機関に出してもらうのが先である。拠点も市内全域にある。多摩市は文化芸術に関する多くがパルテノン多摩に集中している。一方で、文化団体連合はパルテノン多摩も多く使っているが、それ以外の場所での活動もたくさんある。また、文化振興財団やパルテノン多摩に求めることもあるけど、カワマチなどはパルテノン多摩が無くても活動が出来るケースもある。各機能、機関が自分たちの活動を活性化するためには何が必要かを話していくことが大切では。20年前と比較すると、文化振興財団の資金や人的リソースが大きく減っている。まずは、パル

テノン多摩に向けてというより、自分たちが自立するのに何が必要かを考えていくことが重要となるのでは。

◎委員長：中間支援機能強化にあたって、各機関機能それぞれが何らかの役割を担う。そのなかで文化振興財団が旗振り役を担う。計画にはそれが明記されている。事務局に明記されている意図を説明いただきたい。

●事務局：計画策定の時も議論したが、文化振興財団は代表的な団体だが、文化振興財団だけが中間支援機能を担うわけではない。いろいろな機関、機能を繋ぐ中心部に文化振興財団があるが、現時点では体力的に厳しいところがある。市としては、色々な既存の中間支援機能があるのでそこをバックアップする。市としては、文化振興財団に中間支援機能の中心的役割を将来的に担っていただきたいと考えている。ヒト、モノ、カネの手当てが難しいところはあるが、ビジョンとしては将来的に文化振興財団にその役割を担ってもらいたい。

○副委員長：本委員会で文化振興財団への財源や人的なリソースの投入を求めようという提案とすることはできるのでは。

◇委員：私も文化振興財団の理事として事業を見ている。共同事業体で運営しているが、文化振興財団以外の構成団体も少ないリソースでやるのは限界がある。指定管理者の受付、警備、建物マネジメント以外の部分を文化振興財団で担っている。

◎委員長：パルテノン多摩にはチャンスにも成り得るが、金額でいくら補填する、というだけが議論ではない。ただし中間支援機能強化のための働きを誰かが担わなければならない。文化振興財団が担うなら、文化振興財団に資源が必要。その他の担い手だとしても資源は必要である。例えば先にパルテノン多摩のある多摩センターのエリアで試行し、他のエリアに展開するなども想定できる。

○副委員長：子ども劇場は何を求めているのか。

◇委員：Poco Poco Festa を実施するにあたってパルテノン多摩の事業課には多大な協力をいただいている。事業課も取組を継続させたいという気持ちは感じている。ただ、多摩の文化振興の旗振り役を多摩子ども劇場はできない。役どころでない。パルテノン多摩としてこういう多摩市の文化を作りたいというビジョンが分かれば、こういう会議をやりたいというのが分かれば協力ができるし、そのための人も集まるだろう。多摩市の子どもにとっても大人にとってもやってほしい。多摩市全体の子どものために何かやろう、文化振興財団としてはどういうものを目指している、というのを言ってもらえれば分かりやすい。そういった意味での旗振り役となっていただきたい。お金を出してほしいという意味ではない。

◇委員：お金かけずにやるのはすごく重要である。行政がこうしたい、ということを外見的に見せてくれるだけでも、アーティストにとっては後ろ盾になる。会議体をやりたいということだけではなく、〇〇週間のように今週は子どもへの支援を強めましょうという取組でも良い。すごく良い活動がたくさんある。この参考資料の中間支援機能の取組レベルではなく、200 以上はある。少しでも文化振興財団が発信してくれれば、力になる。

○副委員長：ここにいるメンバーに協力してもらえれば前に動き出す。中間支援を担っている委員の皆さんに発想いただいて、お金かけずに、色々なことが進みだす。文化振興財団は今人手が本当に足りない。方向性は分かってきたので、どういう風に進めば良いか。

◇委員：文化振興財団がハブになってくれば、文化団体連合にとっても良い。

◇委員：【参考資料】「中間支援機能の調査について」No.9 多摩市文化振興財団（パルテノン多摩共同事業体）と記述されているが、別ということになる。

○副委員長：パルテノン多摩の受付業務は共同事業体内の別の構成団体が担っているが、外から見るとパルテノン多摩として一体に見える。パルテノン多摩がリニューアルをした時に、文化振興財団の役割も小さくなってしまった。期待に沿えないところもあるが、もう少し時間があれば財団の力をつけられる。

◇委員：パルテノン多摩の内部状況は、一般市民も分かっていない。期待している事もあると思うので、相談いただければ広報でも何でもできることは協力したい。

○副委員長：そうした時に無償で協力というのも苦しくなるので、そうした時こそ行政から支援があるとありがたい。

●事務局：参考資料でパルテノン多摩共同事業体を書いた意図について述べる。現在パルテノン多摩では市民団体等による企画事業を募集している。あくまで、パルテノン多摩で活動する市民の支援を行っているため、指定管理者として業務であることから、パルテノン多摩共同事業体と表記している。文化振興財団としては地域に向けた活動するものであり、地域のみなさんと一緒に協力しながら、広く市民の活動を支援するものが財団の役割であると思っている。

◎委員長：パルテノン多摩という場所の、機能強化になるのではないか。パルテノン多摩が何か活動を始める時に、スタート地点になれば、みんながやりたい、関わりたいという時に、きっかけになる事を示していければ良い。集まって議論する場になれば良い。

◇委員：参考資料のリストの団体が横断的に交流していない。団体名は聞いたことがあり、多少関わりを持った事もあるが。パルテノン多摩の5階にクリエイティブキャンパス企画室があり、いつでも誰でも入って良い、情報コーナーになっているが、意外と市民には知られていない。

●事務局：多摩中央公園の指定管理者がここに入っている。常時（原則として月曜・木曜・土曜・日曜）相談受付している。あくまでも中央公園や多摩センターをこういうふうにしたいということを常時受け付けている。主体的に中央公園の指定管理者が仕掛ける取組も中央公園では始まっている。

◇委員：クリエイティブキャンパス企画室の支援では、多摩センターのプレイヤーを繋ぐ役を担っている。多摩中央公園でも多摩センター地区連絡協議会でも繋げる。クリエイティブキャンパス企画室に来てくれば繋げる。

◇委員：実績としては、まだそこまで市民側として恩恵を受けているように

| | |
|--------------------------|--|
| | <p>は感じない。</p> <p>◇委員：そこまで認知されていないし、多摩セントラルパーク JV としてもそこまで PR していない。直接 JV の運営に携わっている訳ではないので詳しい内部事情は分からないが、大変そうではある。</p> <p>◇委員：個々の団体、取組がばらばらで連携できていない。多摩市の文化って、こういうことなんだということを、核で言ってくれる機能があれば良い。その旗振り役がとしての機能が無い。文化振興財団がすでにあるので、それを確認してサポートするのが良い。そうやってアーティストをサポートできれば、モチベーションにもなる。</p> <p>◎委員長：表現活動の担い手、鑑賞者、享受者と細かく条例で書き分けているのは、他の自治体と比べても特徴的である。自分たち一人ひとりも文化の担い手なんだという事を多摩市が発信するだけでもメッセージになる。連携を具体的にどうやるかは工夫が必要。個々の活動が多いのは多摩市の特徴。ばらばらに活動しているのにも意味がある。連携と言って単なる連絡会議やリストづくりをしたところで機能はしない。</p> |
| <p>次第 4 先進事例について</p> | <p>◎委員長：参考になる先進事例を紹介する。築港 ARC は大阪市が NPO に委託して事業展開したもの。市が NPO を集めて入居させていたビルの一室で、情報のマッチングに特化して事業展開した。部屋の真ん中に卓球台を設置してテーブルにしている。2, 30 代のスタッフがよろず相談に乗ったり、トークイベントを開催したり、ポッドキャストを配信したり、さまざまなプログラムを実施していた。イベントチラシなどの情報が集約、配架されていた。数百万円の事業費で実施していた。一つの場合、複数のプログラムを実施していたのがとても良い。若いスタッフを入れており、人材育成事業としての目的もあった。チーフディレクターはアサダワタルさん。現在、全国各地で活躍している。HAPS は京都市の取組。美大、芸大が多い京都の特性を活かして、若手芸術家の活動場所として地域の空き家をマッチングしている。事務局の拠点自体が、空き家改修したもので作品展示もしている。複数の重点項目を達成するための中間支援機能強化の参考になればと紹介した。この後は、先程の議論の続きとして具体的な取組について意見いただきたい。</p> <p>◇委員：HAPS の取組はスタジオメガネの活動とも重複してくる。同様の活動をすでに行っている団体もあるので、それを繋げる機能があると良い。</p> <p>◎委員長：市内の場の情報マッチングでも良い。</p> <p>◇委員：マッチングの需要はすごくあると思う。</p> <p>◇委員：具体的には地域ごとのキーパーソンに繋がれると良い。</p> <p>◇委員：まさにそうである。自分の設計事務所だけだと大きく広まらない。行政の公認があれば良い。多摩市が取り組んだ方が良い。マッチングは色々な場所が市内にたくさんあるので、1 時間あたり 1000 円で借りられるという紹介の仕方より、こういう風にといい提案を出す方が良い。色々な人が来て欲しい、文化を向上させるには、市の外からも来て欲しい、そのように発信するのが市としては重要。こういうデザインされた場があるということが重要である。こういう場があるだけで一気に取組が進む。</p> <p>◎委員長：前回も話したが、よろず相談は企画でも良い。今日はキュレータ</p> |

一の誰々さんです、という風に日替わりの仕組みでも良い。

◇委員：多摩市は福祉の相談窓口は上手くいっている。色々な窓口があるし、困っているときに行くと色々な相談に乗ってもらえる。文化分野になると途端に相談する相手が無い。たくさんプレーヤーがいるのにもったいない。ネットでも良いし、場所と人があると良い。

◎委員長：相談はどのようなものが受けられると良いのか。

◇委員：アーティストは作品を作れる場所が無い、創作できる場所が無いというのが第1位である。出たい美術展、発表する場が無いという意見も多い。自分達で立ち上げるのにも限界がある。物件マッチングは設計事務所なので、相談を受ける事が多い。多摩市なので家賃が高かったりする。不動産屋と一緒にやれば上手くできることもあると思う。

◎委員長：空き場所はあるのか。

◇委員：ニュータウンエリアはURの団地の中に集会所をたくさん持っているので、URがやるよりもこういう文化活動をやりたいです、ということが多摩市が言っていけそこで新たな活動ができる。ニュータウンは今色々な事が起きている。相談所みたいなものがあれば良い。ニュータウンの団地は大家が限定されているので、分かりやすい。

◎委員長：エリアごとに特性がある。人が集まるのは多摩センター側か。

○副委員長：聖蹟桜ヶ丘のエリアの人まで多摩センターのパルテノン多摩でカバーするのは無理があるかもしれない。

◎委員長：エリアで担い手や重点を変えてやるのも良いかもしれない。

○副委員長：聖蹟桜ヶ丘にタトネができた。パルテノン多摩5階でかつて市の経済観光課でまちづかいの取組をやっていたが、スタッフなど誰かしらが常駐することはなく、活動が限定的であった。マッチングすることを考えていたが、取組を機能させるには人が常駐している必要がある。常駐していないとイベント時の内輪の集まりに終始してしまったりする。属人的にもなるが、コーディネーターのスキルが重要。誰でも良いわけではない。文化振興財団ができれば良いのだが。

◇委員：そういう人を入れるための予算をつけてくれという提案ができるのか。

○副委員長：財源の問題と、それなりのコーディネーターの人がいないといけない。文化振興財団でも人を募集してやりたいけど、はまるような人を探すのが難しい。

◇委員：すでにそういう人材はいるような気もする。

◇委員：コミセンのなかではこの分野が得意という人がたくさんいる。グリーンライブセンターにいつもいるようにしたら日中ふらりと来てくれる人が増えた。グリーンボランティア連絡会の方も日中色々な相談を受けている。本来業務が圧迫されて少し辛くなってもきた。

◎委員長：すでに技術のある人でなくとも構わない。まずその仕事があれば良い。仕事をするなかで相談される側の経験は増える。段々とそこに関わる人が増えるので良い。

◇委員：その人が最初から完璧にある必要はない。つないでもらえる団体が

| | |
|--------------------------|--|
| | <p>あれば良い。</p> <p>◎委員長：その経験を積んでいこうとする若い人はいるのではないか。そこから文化振興財団などの現場に入って、その機能を拡張していく人になる可能性もある。</p> <p>◇委員：20代前半の人に話を聞くと、文化が好きで多摩市を出たくないという人がけっこういて、感度が高いほど多摩市を出たくないと言う。この場所で面白い事ができる、という人が増えている。一般的な人ほど外に出たがる。地元の面白さ、自分が育った町、そのアイデンティティーを表現していく。日本全国そういうムーブメントが増えている。多摩市で働きたい、関わりたい、そういう場にもなる可能性を示す言葉一つがすごく大事になる。クリエイティブキャンパスという名称が良いのか、HAPS という名称が良いのか、文化振興財団という名称が良いのか、それ一つですごく違ってくる。</p> <p>◇委員：このような議論の実現可能性はどれくらいか。</p> <p>●くらしと文化部長：そこに財源を配分させるまでの根拠、説得力が必要になってくる。</p> <p>○副委員長：文化振興財団も行政が後ろ盾についてくれば実施していける。</p> <p>◇委員：文化芸術条例が後ろ盾になる。</p> <p>○副委員長：先進的な演劇、オーケストラを招聘するような事業と市民と一緒に活動するような事業を両立させるのは、今の財団の力では難しい。どちらかといった時に、後者に持っていくような方針を文化振興財団として選択できれば良いのだが。</p> <p>◎委員長：本委員会ではその選択肢を提示するのも良い。</p> <p>○副委員長：文化振興財団にリソースがあれば、双方取り組める。</p> <p>◎委員長：中間支援機能強化の議論の延長線上に、資源を割いて、パルテノン多摩が中心の場所として意思表示ができれば良いのでは。場が生まれていくと関わる人が増えてくる。もう少し具体化したい。</p> <p>○副委員長：多摩センター地区連絡協議会や多摩センター多摩中央公園連携協議会という場があっても取組が活性化するかというと違って、イベントを企画する場に終始している。場があってもテーマをしっかりとコントロールしていくファシリテーターがないと進んでいかない。人と人が集まっている意味がない。求められていることを上手く吸い上げて満足する返答をするスキルがある人がいないと難しい。</p> |
| <p>次第5 今後のスケジュール</p> | <p>◎委員長：事務局の取りまとめも大変だが、今日のところはこういう意見が出た。次回以降の中間支援機関のヒアリングは実施するのか。文化芸術振興計画策定時にもヒアリングは実施した。</p> <p>●事務局：当時は、個々のアーティストや団体に終始して、中間支援機能に関するヒアリングまで踏み込んでいない。こういう団体、機関にも聞いたら良いという意見があればいただきたい。</p> <p>◎委員長：UR、京王電鉄などエリアを考えるうえで重要な担い手が話題に出た。市がパートナーシップを組むことを想定しつつ、ヒアリングした方が良いのでは。</p> <p>◇委員：各コミュニティセンター運営協議会だけでも一人ずつ合計9人の文</p> |

化部長がいる。カルチャーセンターのようなところや、京王友の会のカルチャー教室、デイサービスなども想定できる。

○副委員長：場としては京王ショッピングセンターなどの商業施設も入ってくる。

◎委員長：そのようなところも想定に入れてヒアリングしていただきたい。本日のところはここまでとする。